

JIS 青銅合金 鑄造用地金

JIS H 2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮 2222-2
電話 059-268-2206 (代)
FAX 059-268-1949

販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115 (代)
FAX 06-6244-3116

東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115 (代)
FAX 06-6782-3143

並銅・下銅
真鍮ダイ粉
アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750
FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

輸出は二次合金が大幅減少



橋本健一郎氏

橋本金属・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

【概況】 六月前半は、ギリシャ危機対応への欧州内での混乱やECBトルシエ総裁の七月利上げ示唆発言、また米雇用統計、既存店売上高など一連の米経済指標の悪化、さらに米格付け会社S&Pによるギリシャ国債の三段階引き下げを受け、アルミ現物相場売り二、五九五ドルと二、六〇〇ドル切つ

ての前半縮めとなった。

後半は、ニューヨーク連銀景気指数が予測(一・二%増)を大きく下回る七・八%減だったことや米住宅着工数の下落、ギリシャ議会における財政縮小法案可決などギリシャ懸念は後退したもの、实体经济に伴う数字の悪化が尾を引き、七月四日現在、LME(現物相場)二、四八三ドルのスタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比六七・七%増の四八万九、七二三台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比五〇・三%増の二二万五、〇二四台。

◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比一六・二%増の二〇二万八、〇〇〇台。(二面へ続く)

コジャワシ銅山、再び悪天候

緊急対応計画下で操業続く

産銅量世界三位のチリのコジャワシ銅山の操業は、例年になく厳しい大雪の打撃を受けている。銅資源が豊富な同国北部では、一段と激しい雪、風、雨が見込まれている。

労組当局者は、五〇年に一度の大雪を受けて、同銅山の生産量(世界全体の三%)が半分未満に減少していると述べた。

一方、経営側は生産への影響を示さず、緊急対応計画の下で操業しているとだけ明らかにした。

労組責任者のマニユエル・ムノズ氏は、大雪はこの数時間で弱まったが、安全面から、引き続き同銅山の人員は大幅に落ち込んでいると説明。「この状況下で、生産は大幅に減少している。現在の稼働率は三〇〜四〇%程度だ」と語った。

アルミスクラップ相場 据え置き〜五円上昇の予測

LME相場
が頭抑え

自動車生産は回復の傾向も

(二面より続く)

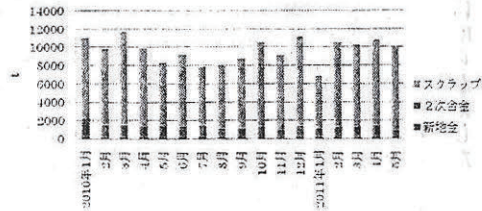
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比二・一％増(昨年比六・四％増)の六万三、七二六戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比四％増の二〇八し、二次合金が四八・一％減の六二八し、スクラップが一・五％減の九、一八〇し。

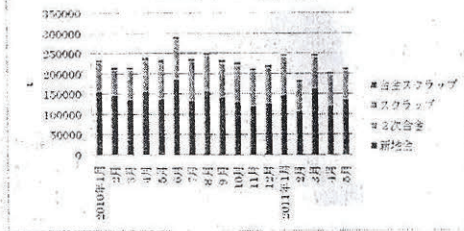
	3月	4月	5月
輸出			
新地金	125 t	200 t	208 t
前月比	-5.3%	+60%	+4%
二次合金	1094 t	1210 t	628 t
前月比	-7.2%	+10.6%	-48.1%
スクラップ	9012 t	9320 t	9180 t
前月比	-2%	+3.4%	-1.5%
輸出推移			

10.11年
アルミ輸出推移

輸入は新地金が前月比一・六％増の一三万四、五六七し、二次合金が三・八％減の七万四、八九一し、スクラップが九・六％減の七九七し、合金スクラップは六・六％減の三、六〇七し。

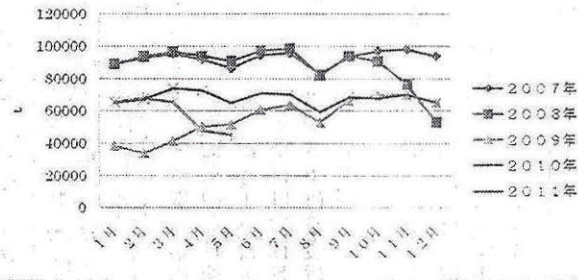
	3月	4月	5月
輸入			
新地金	16万1242 t	12万547 t	13万4567 t
前月比	+49.6%	-35.2%	+11.6%
二次合金	8万1073 t	7万7881 t	7万4891 t
前月比	+14.8%	-3.9%	-3.8%
スクラップ	925 t	882 t	797 t
前月比	+66.7%	-4.6%	-9.6%
合金スクラップ	4123 t	4323 t	3607 t
前月比	+13.8%	+4.9%	-16.6%
輸入推移			

09.10年アルミ輸入推移



出典 財務省 貿易統計

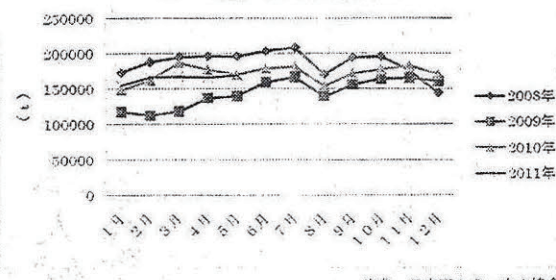
アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム協会

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比五・四％減の四万五、三六三しであった(昨年対比三〇・三％減)。(六面に続く)

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比一・八％増の一六万九、一〇八し(昨年対比〇・四％減)。

(二面より続く)

【見通し】

自動車生産を中心に急激な回復の月となった。

壊滅的な影響を受けた自動車生産は前月比六七・七%増の四八万九千台と急回復、前年比も三〇%減と前月の六〇%減から大幅改善した。国内自動車販売も二万五千台で前月比五〇%増と大幅改善、こちらも前年比二三%減と前月の六〇%減から大幅改善した。自動車関連のアルミ二次合金生産は前月比五・四%減の四万五、三六三として、昨年対比では三〇・三%減。

仮設住宅による復興需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比一・八%増。昨年対比〇・四%減とほぼ昨年並みまで改善。

新設住宅着工数は季節調整前月比二・一%増の六万三千戸台。前年比で六・四%増と大幅改善。

輸入塊は上海シグマが六月末現在で二、五〇〇ドル、ロシア塊は二、三〇〇ドルと前月比八〇ドル上昇している。

輸入は二次合金三・八%減、スクラップル。

インドネシア金鉱山で生産急減

ストの影響で—米フリーポート

米鉱業大手フリーポート・マクモラン・カッパ・アンド・ゴールドがインドネシアに保有するグラスバーク鉱山では、労働者約八、〇〇〇人によるストが二日目に入り、金鉱山の操業と生産が大幅に縮小している。鉱山の労組関係者が五日、明らかにした。

フリーポート・インドネシア側は同日、コンセントレート（精鉱）の出荷に支障は生じて

六%減（共に前月比）と減少。

輸出は二次合金四八・一%減と輸出減、輸入減の形となった。

LM E価格について、ギリシャ議会での関連法案可決によるギリシャ懸念の後退、それによる世界景気回復が期待できるが、中国経済指標の減速懸念や米連邦債務引き上げでの与野党の混乱に伴う米景気停滞観測もあり、またコモディティ全般がインフレ懸念の対象となっていることから上値は重たく、五〇〇〇二、六〇〇ドルを予測。

アルミ原料価格に関して前月に続きLM E価格に上昇要因は少ないものの、最大の需要家である自動車メーカーが三カ月ぶりに生産計画を発表するなど、早期生産回復は確実なものとなった。今月だけでも自動車生産・販売は五〇〇六七%増と回復しているにも関わらず、貿易統計上、二次合金輸入は三・八%減と、その需要に対応できるほど手当が全く進んでいないことから需給はひっ迫。

ただ、LM E価格で一〇〇ドル程度下落していることが頭を抑え、六月後半価格から据え置き、五円上昇の予測。

いないと強調するとともに、操業に影響が及んでいるかどうかについて、コメントしないとしている。

ある労組幹部は、ロイター通信との電話で「大まかな推定では、現在の鉱山稼働率は一〇%以下に落ち込んでいる。ほぼ停止状態だ」と説明した。

五月米製造業受注〇・八%増加

輸送関連除くと〇・二%増 商務省

米商務省は五日、五月の製造業受注が四、四五二億八、五〇〇万ドルと、前月比〇・八%増（前月は〇・九%減改定）となったと発表した。市場予想平均（ロイター通信調べ）は一・〇%増だった。

変動の激しい輸送関連を除くと〇・二%増（前月も〇・二%増）、国防関連を除くと〇・七%増（同〇・九%減）だった。

耐久財は二・一%増、機械類は〇・四%増。コンピュータ・電子機器は一・二%増。一次金属は一・六%増。輸送機器は六・三

%増。うち民間航空機・同部品は三六・五%増。国防用航空機・同部品は一四・〇%増。一方、自動車・同部品は二・〇%増。

非耐久財は〇・二%減少。また、資本財は五・五%増。国防資本財は四・一%増、非国防資本財は五・七%増だった。

設備投資の先行指標となる航空機を除く非国防資本財受注は一・六%増（同〇・四%増）。設備投資の一致指標となるコア資本財出荷は一・八%増（同一・五%減）。